

「道徳の時間」の指導の実際 ～ 体験を生かす道徳の授業～

子どもは学校、家庭、地域社会で多様な体験を積み重ねながら、様々な道徳性を芽吹かせている。そのため、道徳の授業で、それらの体験を生かし、道徳的なよさを子ども自身でとらえさせることが大切である。

1 子どもの発達段階や実態を踏まえる

(1) 想像や空想の世界に浸ることのできる低学年

低学年の子どもは、想像力によって豊かな想像の世界を描くことができる。この想像力による体験は、**内的な体験**と呼ぶことができるが、これは道徳性の育成の基礎となるものである。

(2) 問題解決能力の発達に伴い興味をもって取り組む中学年

中学年の子どもは、**問題解決能力の発達**に伴い、体験的活動を「道徳の時間」に生かすことにより、一層興味をもって取り組むようになる。

(3) 他とのかかわりを考え、論理的思考が育つ高学年

高学年の子どもは、自分がこれまで得た知識と結び付けながら、**物事を客観的に考える力**が育ってくる。登場人物から離れて自分のこととして考えることができるとともに、相手の立場になって他者を思いやる**共感する力**が発達する。

(4) 独自の内面の世界をもつ中学生

中学生は、多様な体験的活動を通して自己理解を深め、自己の内面に気付くことができる。そして、自らの思いや考えを生かしながら他者と触れ合い、自己有用感、充実感、達成感を抱き、**社会的な自己実現**を図ろうとする。

2 体験を生かした道徳の授業を工夫する

(1) 自分自身の成長にかかわっている体験を生かす

子どもは、毎日の生活の中で自分をよりよくしようと考え、様々なことをがんばろうとする。また、時には悩んだり、やりたいことに身が入らなくなったりする。

「道徳の時間」は、そのような子どもたちの日常の体験が反映する時間である。

教師は「道徳の時間」の話し合いに、そうした子どもの体験が反映するように多様な工夫を試みる大切である。

日常の体験を生かす展開例

(小学校中学年)

- (1) 今、がんばって続けていることにどんなことがあるかな？
(あいさつ、日記、なわとびなど)
- (2) この資料では、どんなことに迷ったり困ったりしながらがんばっているのかな。
- (3) 資料の人物と同じような気持ちになったのはどんなことかな。
- (4) 今、自分はどんなことができそうかな。

(2) 多様な人々とのかかわりを生かす

例えば、休み時間は、子どもが友達と自由に過ごせる時間である。そのような場面では、子どもは自分の意思を相手に伝え、互いのかかわりを意識しながらともに楽しい時間を創り出している。

このように、他の人とかかわることの道徳的な意義を、資料を手がかりにしながら「道徳の時間」で明らかにしたい。

こうした学習を通して、子どもたちは他の人とかかわりをもちながら生活することの大切さを感じとることができる。

友達とのかかわりの中で子どもの思いを生かす展開例(小学校高学年)

(1)(一枚絵を見て)この絵の中の一人ぼっちの子の気持ちを考えよう。

(2)この資料の中では、登場人物が迷いながらも、勇気を出しているよ。

(3)友達のよさを感じたことはどんなことかな。

(4)だれもが友達のことと同じ願いをもっているんだ。

(3) 自然のすばらしさや生命の躍動を感じた体験を生かす

自然の中で遊んだり、生活したりすると、子どもはその豊かな感性で自然のすばらしさを様々な角度から感じている。例えば、美しく咲いている花、たくましく生きている動物などに生命の尊さを実感し、深い感動を味わっている。また、精一杯走っているときや、心から歌声を響かせているときなどに生命の躍動を感じ、生命の力強さに感動することもある。

このような体験を「道徳の時間」に話し合ったり、資料に重ね合わせて考えたりすることで、輝く自分を自覚でき、自分をより大切にしようという気持ちが高められていく。

栽培活動など、生命の大切さについての体験を生かした「道徳の時間」の指導例

主題名 「生命の大切さを考える」3-(2)

資料(児童詩)4行詩 指導学年 小学校低学年

<ねらいの焦点化>

- ・身近なものの「生命」の営みを感じ取る。
- ・生命あるもの全てをかけがえのないものとして大切にしようとする心情を育てる。

「あさがおさん」

1年

あさがおさん
おげんきにいますか
はい
いますよ

展開の概要(低学年)

| | 指導の流れ | 支援・留意点 |
|------|---|--|
| 気づく | 1 生き物を育てた経験を発表する。 | 命が育っていく様子,それを見たり,感じたりした経験を発表させる。 |
| とらえる | 2 詩「あさがおさん」を読む。 3 情景を想像して考える。 ・お話をしているのは,誰と誰でしょう。 ・この詩の季節はいつでしょう。 ・どうして話しかけたでしょう。 | 「夏」ではなく,「冬」であることを知らせる。 「あさがおさん」が,たねであることに気づかせる。 |

体験がベースにあるので、読解にかたよることなく読み進め、自由な発想で考えさせることができる。

| | | |
|------------------|--|--|
| 見 つ め る | 4 自分の命のつながりを考える。 ・ 自分の命，あさがおの命， ・ 命は 何よりも大事なんだ。 | 自由な発想で発表させる。 お父さん，お母さんから生 まれてきたかけがえのない 命であることに気づかせる。 |
| つ な げ る | 5 あさがおの種のプレゼントをする。 ・ 小さな生命を育ててみようと思う。 6 詩「あさがおさん」を読む。 ・ 自分の心で読んでごらん。 7 「心のノート」の使用。 | ひとつの種から育て，採集 した種をわたす(小さな命の つながりの意識化)。 心に芽生えた思いを込め て読ませる。 |

命のつながりを意識させ、他の活動と関連させながら体験を交えながら命を大切にしようという心情を芽生えさせる指導が大切である。(事後へのつながりを重視)

あさがおの栽培(事後のつながり)の体験を生かす
「ちいさいのちのゆくえ」から

・「水をやり，肥料をあげ，天気の日には外に出して日光を当ててあげました。」
・世話をして・・・「やっと，さいたんだな。命を育てるってたいへんだな。。。」
・種ができました。また種をまいて，花をどんどん咲かせたいです。命をどんどん増やしたいです。
・やった！！さいた！！ 命ってすごい。まだまだ，たくさんさいてね。あさがおさん！！

発達段階に応じた指導につなげながら，道徳的実践力の向上を図る

(4) 地域における体験活動を道徳の時間に生かす

総合的な学習の時間などでは，社会生活を見つめる体験的な活動を行うことが多い。「道徳の時間」において，それらの体験的な学習を生かし，「自分と社会のつながり」について改めて考え，自分の気持ちを出し合えるようにしたい。そのような学習を通して，自分の活動に対する考え方に新たな価値を見つけることができるようになる。

地域における体験活動を生かした「道徳の時間」の指導例(中学校)

主題名 「社会のために」 4-(3) 資料名「小さな一歩」

指導学年 中学校第2学年

<ねらい>

自分と社会のつながりを自覚し，社会生活の向上に努めようとする意欲を高める。

<資料の選択について>

美化委員である主人公が、母親の町内清掃活動での出来事を聞き、「小さな一歩」から身近な環境問題に取り組むことの大切さに気づいていく内容である。体験的な学習をしてきた生徒は、主人公の悩みや挫折感を実感できると思われる。また、自分の活動がよりよい社会づくりのために役立っていることに気づかせるためにも適切な資料である。

展開の概要（中学校第2学年）

| | 指導内容 | 支援・留意点 |
|------|---|---|
| 気づく | 1 地域で行った様々な活動について想起する。 | 活動の様子を写真で提示して想起させる。 アンケート結果を提示して、自分の活動と社会とのかわりのとらえ方に注目させ、問題意識を高める。 |
| とらえる | 2 資料を読み、話し合う。 ・資料中の「環境問題」に関する発言に対して、どのように感じましたか。 ・お母さんの気持ちが変わったのは、どんな気持ちからでしょう。 ・クリーン作戦におじいさんが「ありがとう」と声をかけたのはどんな気持ちからでしょう。 | 自分の活動がささやかではあっても社会の役に立っており、意義があるのだということに気づかせる。 社会のために尽くそうとする気持ちが、他の人の心も明るく幸せにすることに気づかせる。 |
| 見つける | 3 自分が行ったこれまでの活動を振り返る。 | これまでの体験活動の中に、ささやかではあっても価値があることを感じ取らせる。 |
| つなげる | 4 今後、自分たちにできることを考え、カードに記入し、交流する。 5 教師の話聞く。 | 実践化への意欲を高める。 学校に届けられた感謝の手紙を紹介する。 |

導入で写真や映像、アンケートなどを用いて体験を掘り起こし、より自分のこととして考えることができる。

資料の内容から、これまでの体験を想起し、自分たちの体験と似た資料の場面で、子どもの気持ちを十分投影させる活動を位置付ける。

自らの体験にフィードバックして、新たな気持ちや意欲を育てる指導が大切である。